

# 水稲現地栽培指導会資料（6月下旬～8月上旬）

令和5年6月20日  
福島県北農林事務所伊達農業普及所

## 1 気象経過（アメダス梁川データ（6/15まで）を加工して作成）

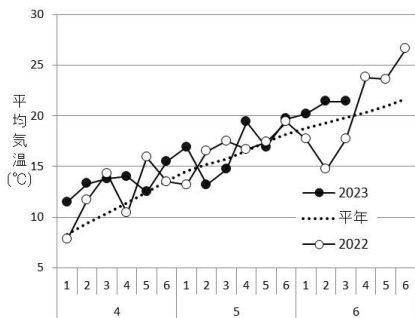


図1 平均気温の推移

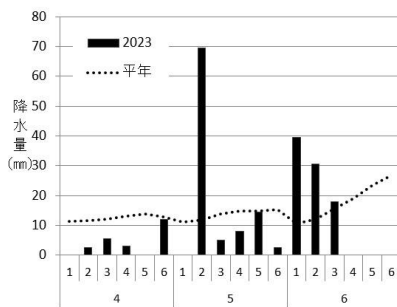


図2 降水量の推移

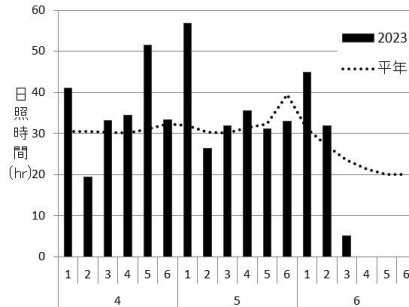


図3 日照時間の推移

## 2 東北地方の天候予報（6/17～7/16 1か月予報、仙台管区气象台6/15発表）

- 東北地方は、期間の前半は気温がかなり高くなる見込み。
- 平年より気温は高く、降水量は多く、日照時間は多い。
- 東北南部は6/11頃に梅雨入りしました(平年6/12、昨年6/6)。

## 3 水稲の生育状況について

- 6/20 現在の水稲の生育状況は、平年より草丈は長く、茎数は多く、葉色も濃い。

品種：コシヒカリ			6月20日				
調査地点	年次	田植え	草丈	茎数	葉数	葉色	
			(cm)	(本/m <sup>2</sup> )	(枚)	カラスケール	SPAD502
伊達市 梁川町 大関	本年	5/13	42.7	571	8.1	4.0	43.4
	前年	5/15	29.3	265	7.5	4.5	39.8
	平年	5/16	35.1	424	8.3	3.9	38.9
	平年比	-2	122%	135%	-0.2	+0.1	+4.5
国見町 塚野目	本年	5/13	44.8	458		4.3	42.3
	前年	5/18	29.4	304		4.3	40.1
	平年	5/15	35.9	421		3.9	38.5
	平年比	-2	125%	109%		+0.4	+3.8

## 4 水管理

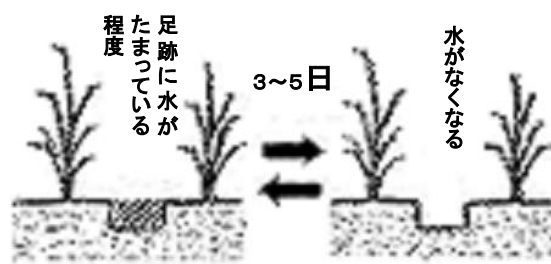
(1) 中干し（根の健全化・無効分げつ抑制・倒伏防止・地耐力の向上）

- 有効茎数（23～25本/株）が確保されたら、速やかに中干しを行いましょう。

目安： 天のつぶ：6/20頃～7/5頃、コシヒカリ：6/25頃～7/10頃

- 田面に1cm程度のひび割れ、または人が歩ける程度の固さ（田面に足跡がつく程度）まで、5～7日間を目安に田面を干します。

- 砂質土壌の場合、田面が羊糞状になり、足跡に水がたまる程度の弱めの中干しにします。
- 溝切り（排水に有効）は10～20条おきに1本を目安に行い、溝を排水口に確実に連結しましょう。
- 中干し終了直後は根腐れ発生防止のため、走水により急激な湛水状態にしないようにし、終了後の水管理は、間断かん水を基本とします（図5）。



右と左を繰り返すのが間断かん水

図5 間断かん水のやり方

## (2) 低温時の深水管理（幼穂の保護）

- 穂首分化期（出穂35日前）以降、気温20℃以下が予想される時には、深水管理とします。
- 幼穂形成期（出穂25日前）に低温に遭遇すると耐冷性が低下し、減数分裂期頃（出穂15日前）の低温で障害不稔が増加するため、深水管理を行い、被害軽減に努めましょう。

水深の目安：幼穂形成期5～10cm、減数分裂期15cm以上（幼穂の高さ以上）

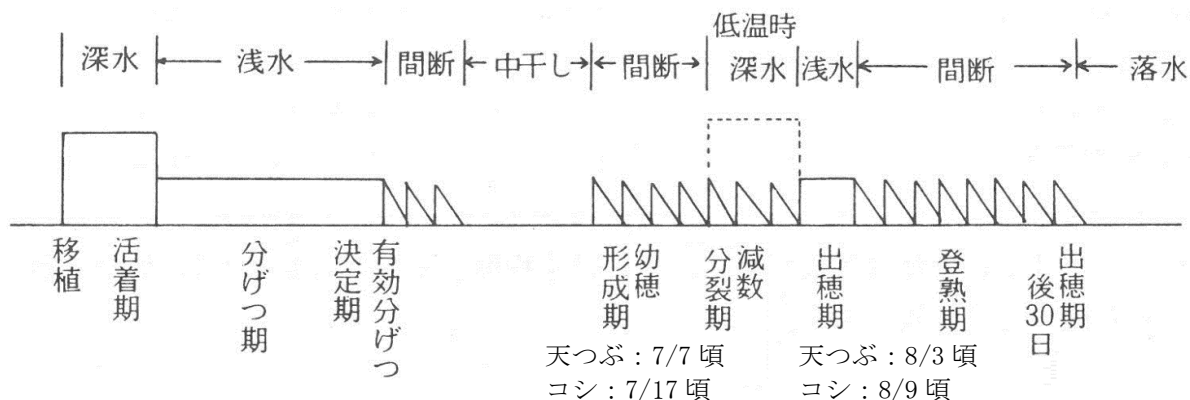


図4 水管理の模式図

## 5 追肥

### (1) カリ追肥（青枯れ症状の発生抑制）

表1 カリ肥料別の使用量と施用時期

資材名	使用量(kg/10a)	施用時期
ケイ酸カリ	15～20	出穂40日前 (天のつぶ：6月中旬 コシヒカリ：7月上旬頃)
塩化カリ	6～8	出穂35日前 (天のつぶ：6月下旬 コシヒカリ：7月上旬頃)

- 天のつぶの割粃対策として、基肥でケイ酸カリを散布していない人はこの時期に散布しましょう。
- ケイ酸は、栄養生長期よりも生殖生長期（出穂期以降）の方が施用効果は高いですが、ケイ酸カリは緩効性であるため、この時期に施用します。

※ケイ酸の効果

- ①根張りを良くし、茎葉を丈夫にして病害虫及び、倒伏抵抗性を高めます。
- ②稲体の受光態勢を良くすることで、群落の光環境を改善し、登熟歩合を高めます。

(2) 穂肥 (粒張り(登熟)向上)

表2 品種別穂肥の施用時期と窒素分量

品種	施用時期	窒素分量 (kg/10a)
ふくひびき 天のつぶ	出穂25～20日前 (幼穂長1～2mm)	2.0
コシヒカリ	出穂15日前 (幼穂長2～3cm)	1.0～1.5

- 側条施肥で葉色が低下した場合、早めにつなぎ肥 (窒素量1kg/10a) を施用します。
- 穂肥時期に葉色が濃い (草丈が伸びている) 場合、穂肥を遅らせて出穂7日前頃に窒素量で1kg/10a を施用します。
- コシヒカリは、出穂前15日頃に草丈85cm以上、葉色値 (カラスケール) 3.5以上であると倒伏する危険性が高まるため、穂肥の施用時期を遅らせ、穂肥の施用量を少なくします。
- 基肥一発肥料 (緩効性肥料) を施用して、幼穂形成期頃に葉色が極端に低下する時は、穂肥を施用しましょう (基本的に穂肥は必要ありません)。
- 砂質土壌では穂肥を2回に分けて実施するか、緩効性肥料 (有機入り肥料) の施用が効果的です。
- 出穂前18日頃 (減数分裂期) から出穂期にかけて日照不足、養分不足状態になると、籾殻の生長肥大が抑制されて籾殻が小さくなり、割れ籾が発生しやすくなるので適期の施肥を心がけましょう。**
- 登熟向上を目的に、出穂10～20日前にフジワン粒剤4kg/10aを散布しましょう。**

6 雑草対策

○残草状況に応じて中・後期除草剤を散布します。除草剤の使用時期を確認しましょう。

(1) ノビエと広葉雑草 (ホタルイ、クログワイ及びオモダカ等) が残草した場合 (薬剤例)

除草剤名	使用量 (/10a) (散布液量)	使用時期	使用回数	施用方法
ツイゲキ豆つぶ250	250g	移植後14日 (稲5葉以降)～ノビエ4葉期 (但し、収穫60日前まで)	1	湛水散布又は無人航空機による散布
レプラス1キロ粒剤	1kg	移植後14日～ノビエ4葉期 (但し、収穫60日前まで)	1	
ハイカット1キロ粒剤	1kg	移植後15日～ノビエ3.5葉期 (但し、収穫60日前まで) ※アオミドロ・藻類による表層剥離にも薬効	1	
フォローアップ1キロ粒剤	1kg	移植後15日～ノビエ5葉期 (イネ4葉期以降) (但し、収穫60日前まで)	1	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布
クリンチャーバスME液剤	1,000ml (70～100L)	移植後15日～ノビエ5葉期 (但し、収穫50日前まで)	2	落水散布又はごく浅く湛水して散布
ワイドアタックSC	100ml (100L)	移植後20日 (イネ5葉期以降)～ノビエ6葉期 (但し、収穫30日前まで)	2	

## (2) ノビエのみが残草した場合（薬剤例）

除草剤名	使用量 (/10a) (散布液量)	使用時期	使用回数	施用方法
クリンチャー 1キロ粒剤	1 kg	移植後7日～ノビエ4葉期 (但し、収穫30日前まで)	2	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布
	1.5 kg	移植後25日～ノビエ5葉期 (但し、収穫30日前まで)		
トドメMF乳剤	200ml (25～100L)	移植後14日～ノビエ7葉期 (但し、収穫50日前まで)	2	湛水散布又は落水散布
ヒエクリーン 1キロ粒剤	1 kg	移植後15日～ノビエ4葉期 (但し、収穫45日前まで)	1	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布
クリンチャー EW	100ml (25～100L)	移植後20日～ノビエ6葉期 (但し、収穫30日前まで)	2	湛水散布又は落水散布

## (3) 広葉雑草（ホタルイ、クログワイ、オモダカ等）のみが残草した場合（薬剤例）

除草剤名	使用量(/10a) (散布液量)	使用時期	使用回数	施用方法
バイスコープ 1キロ粒剤	1 kg	移植後14～60日 (但し、収穫45日前まで)	1	湛水散布又は無人航空機による散布
バサグラン粒剤 (ナトリウム塩)	3～4 kg	移植後15～55日 (但し、収穫60日前まで)	1	落水散布又はごく浅く湛水して散布 ※散布後、最低3日間程度は落水またはごく浅い湛水(5日間)状態を保つ。
バサグラン液剤 (ナトリウム塩)	500～700ml (70～100L)	移植後15～55日 (但し、収穫50日前まで)	2	

## (4) その他（アオミドロ藻類表層剥離、クサネム、イボクサ）のみが残草した場合（薬剤例）

除草剤名	使用量(/10a) (散布液量)	使用時期	使用回数	施用方法
モゲトン粒剤	2～3 kg	ウキクサ類、藻類の発生始～発生盛期 (但し、収穫45日前まで)	3	湛水散布又は無人ヘリコプターによる散布
	1～2 kg	藻類・表層はく離の発生時 (但し、収穫45日前まで)		
ウィードコア 1キロ粒剤	1 kg	移植後7日～ノビエ4葉期 (但し、収穫60日前まで) ※散布適期クサネム30cm、イボクサ40cmまで	2	湛水散布又は無人航空機による散布
ノミニー液剤	50～ 100ml (100L)	移植後30日～クサネムの草丈40cmまで (但し、収穫60日前まで)	1	落水散布又はごく浅く湛水して散布
		移植後30日～イボクサの茎長30cmまで (但し、収穫60日前まで)		

## 7 病虫害防除

### (1) いもち病

- 気温20～25℃、日照不足、葉の濡れが長時間続き、稲体の窒素含有量が多いときに発生しやすくなります。
- **置き苗**は葉いもちの発生源になるので**早急に処分**しましょう。
- 穂いもち対策で散布剤を使用する場合は、穂ばらみ末期と穂揃期の2回を基本に散布、多発生が予想される場合は傾穂期にも追加で散布します。
- **葉いもちの場合(薬剤例)**

農薬名	使用量(/10a)	使用時期 (防除適期)	使用回数	備考
ビーム粉剤DL	3～4kg	収穫7日前まで(分けつ期)	3	
ラブサイド粉剤DL	3～4kg	収穫7日前まで(分けつ期)	3	
ノンブラス粉剤DL	3～4kg	収穫7日前まで(分けつ期)	2	
ブラシン粉剤DL	3～4kg	収穫7日前まで(分けつ期)	2	

○ **穂いもちの場合(薬剤例)**

農薬名	使用量(/10a)	使用時期 (防除適期)	使用回数	備考
コラトップ1 キロ粒剤12	1～1.5kg	出穂30～5日前まで(出穂15～10日前)	2	湛水散布
キタジンP粒剤	3～5kg	出穂7～20日前まで(出穂10日前)	2	湛水散布
フジワン粒剤	3～5kg	出穂30～10日前まで 但し収穫30日前まで(出穂30～10日前)	2	湛水散布

(2) 稲こうじ病

- 穂ばらみ期から出穂期にかけて低温、日照不足、多雨の年は、発生が多くなります。また、多肥でも発生が助長されます。
- **稲こうじ病の場合(薬剤例)**

農薬名	使用量(/10a)	使用時期 (防除適期)	使用回数	備考
モンガリット1 キロ粒剤	1～1.3kg	収穫45日前まで(出穂21～14日前)	2	湛水散布
Zボルドー粉剤DL	3～4kg	出穂10日前まで(出穂20～10日前)	—	※葉が濡れていると薬害発生の恐れあり

(3) 紋枯病

- 多肥、幼形期以降の高温(平均気温22～23℃以上)・多湿で発生が助長されます。
- 前年度、被害株に形成された菌核が一次感染源になるため、前年度発生が多かったほ場では必ず防除してください。また、過剰な窒素施用は避けましょう。
- **紋枯病の場合(薬剤例)**

農薬名	使用量(/10a) (散布液量)	使用時期 (防除適期)	使用回数	備考
モンガリット1 キロ粒剤	1～1.3kg	収穫45日前まで(出穂28～14日前)	2	湛水散布
リンバー粒剤	3～4kg	収穫30日前まで(出穂30～10日前)	2	湛水散布

バリダシン液剤5	1,000倍 (60~150L)	収穫14日前まで(穂ばらみ~穂揃期)	5	
モンカットファイン粉剤20DL	3~4kg	収穫14日前まで(穂ばらみ~穂揃期)	3	

#### (4) カメムシ類、イナゴ類

- 水田周辺の草刈りをこまめに実施し、生息場所をつくらないようにします。また、出穂の10日前頃まで地域一斉に草刈りを終了しましょう。
- 出穂の早い雑草(ノビエ、ホタルイ)に集まるため、水田内に残草している場合は、早めに処理しましょう。
- 散布剤の防除は、乳熟期を基本とし、発生状況により7日おきに追加防除をおこない、特に、天のつぶなど割粃が発生しやすい品種では、出穂20日後頃に追加散布をおこなきましょう。
- カメムシ類の場合(薬剤例)

農薬名	使用量(/10a)	使用時期 (防除適期)	使用回数	備考
アルバリン粉剤DL	3kg	収穫7日前まで(出穂期以降(乳熟期))	3	
スタークル粉剤DL	3kg	収穫7日前まで(出穂期以降(乳熟期))	3	
ダントツ粉剤DL	3~4kg	収穫7日前まで(出穂期以降(乳熟期))	3	
キラップ粉剤DL	3~4kg	収穫14日前まで(出穂期以降(乳熟期))	2	
スミチオン粉剤3DL	3~4kg	収穫21日前まで(出穂期以降(乳熟期))	2	出穂前は1回
アルバリン粒剤	3kg	収穫7日前まで(出穂期以降(穂揃期~乳熟期))	3	湛水散布
スタークル粒剤	3kg	収穫7日前まで(出穂期以降(穂揃期~乳熟期))	3	湛水散布
ダントツ粒剤	3~4kg	収穫7日前まで(出穂期以降(穂揃期~乳熟期))	3	湛水散布
キラップ粒剤	3kg	収穫14日前まで(出穂期以降(穂揃期~乳熟期))	2	湛水散布

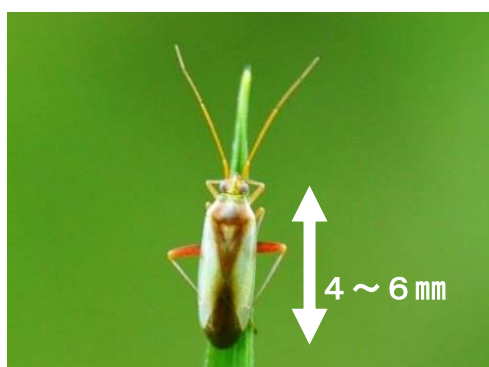


写真1 アカスジカスミカメ

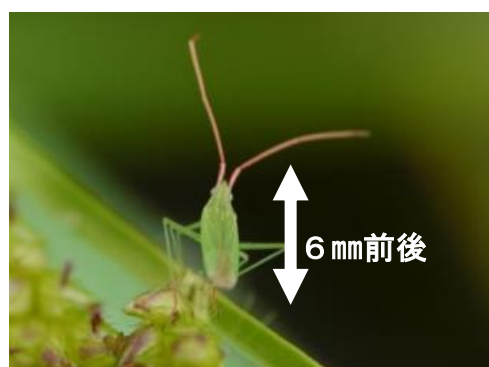


写真2 アカヒゲホソミドリカスミカメ

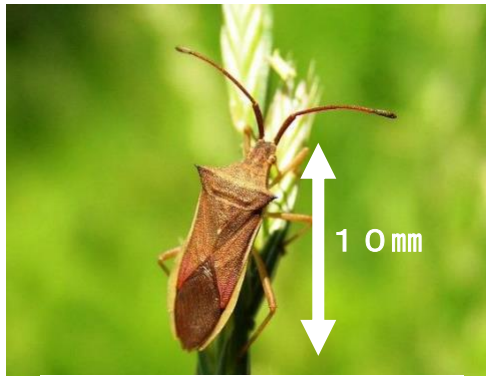


写真3 ホソハリカメムシ

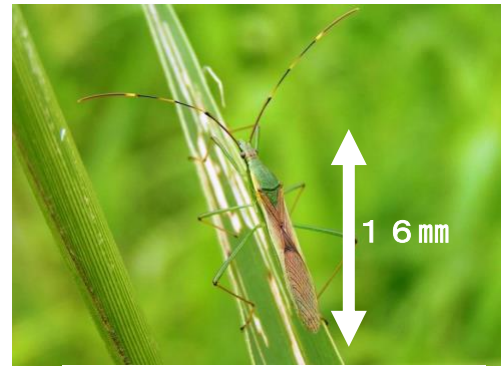


写真4 クモハリカメムシ

○ イナゴ類の場合(薬剤例)

農薬名	使用量(/10a)	使用時期 (防除適期)	使用回数	備考
アルバリン粉 剤DL	3 kg	収穫7日前まで(6月中～7月上旬)	3	
スタークル粉 剤DL	3 kg	収穫7日前まで(6月中～7月上旬)	3	
トレボン粒剤	2～3 kg	収穫21日前まで(6月中～7月上旬)	3	湛水散布

- ★ 令和5年5月24日現在の農薬登録内容に基づき作成しています。
- ★ 農薬は使用前に必ず農薬のラベルを見て農薬の使用基準を確認しましょう！
- ★ 農薬の散布後7日以上は止水管理として落水等を行わないようにしましょう！
- ★ 周囲にミツバチの巣箱が設置されている場合、養蜂業者に連絡しましょう！
- ★ 防除を行った際には、忘れずに防除日誌へ記帳をしましょう！
- ★ 無理のない作業、余裕を持った慎重作業で、農作業事故を防止しましょう！
- ★ これから暑い日が増えます。こまめな水分補給と休憩で熱中症を予防しましょう！